

(様式1)

視 察 報 告 書

令和3年8月12日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 建設水道委員会
委員長 雲坂 衛



本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

記

1 期 間	令和3年5月7日（金）
2 派遣先	(1)因幡環境整備株式会社 (2)鳥取市上水道事業協同組合 (3)鳥取市水道局 (4)鳥取市都市整備部、株式会社まるにわ、鳥取市中心市街地活性化協議会 (5)鳥取市下水道部 (6)国立大学法人鳥取大学、鳥取市都市整備部
3 視察内容 （調査）	(1)因幡環境整備株式会社 ・用瀬浄化センターについて (2)鳥取市上水道事業協同組合 ・上水道事業の現状と課題（要望等）について (3)鳥取市水道局 ・鳥取市水道事業長期経営構想について (4)鳥取市都市整備部、株式会社まるにわ、鳥取市中心市街地活性化協議会 ・鳥取駅周辺の取組について (5)鳥取市下水道部 ・秋里下水終末処理場、下水道等包括的管理委託業務について (6)国立大学法人鳥取大学、鳥取市都市整備部 ・AIを活用した道路パトロールについて

4 派遣委員 の氏名	雲坂 衛 委員長 勝田 鮮二 副委員長 萩野 正己 委員 前田 伸一 委員 太田 縁 委員 山田 延孝 委員
5 委員会 所見	別添のとおり
6 参加者 所見	別紙のとおり

(別添 委員会所見)

視 察 先	(1)因幡環境整備株式会社
調査項目	用瀬浄化センターについて
所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処理水は、適正に管理されたものを千代川に放流されているが、施設の老朽化が心配される。千代川の下流域への影響などを考えると改修が喫緊の課題であると考え。早急に改修について、検討をすることが必要であると感じた。 ・ 浄化管理は、季節と天候による変化、例えば雨量や積雪量などを十分考慮して行われているので、それには鳥取の天候と周辺の地形を熟知する人の知恵とともに勘も必須であり、継続的な管理技術の蓄積と人材育成が重要である。施設の老朽化も進んでいるが、小規模改修を続け費用の抑制を行いながら施設維持が続けられている。開設当初は、市民の生活様式の急速な変化による、千代川への汚染の影響を懸念し、この施設が開設されたが、近年はこの浄化センターで浄化した水の流下による川の水質変化と鮎の生育の関係を心配する意見もある。 ・ 常時水質検査を行っているから大丈夫とのことだが、処理水が千代川に放流されている現場を見ると、生態系への影響は大丈夫だろうか、下流域では農業用水として利用されていることを考えると一抹の不安を覚えた。 ・ 平成 14 年完成の施設で、設備更新等が課題。「地元住民から鮎の食べるコケが、この施設の下流域で生えなくなっている影響等の懸念がある」とのこと、一概に原因を特定はできないが、更新時には塩素以外の処理方法を検討すべきと考える。また、農業用集落排水の浄化槽等の影響も調べてみる必要もあると感じる。 ・ スクリーンユニット、水処理タンク、オキシデーションディッチ、移動式脱水車を見学し、下水を処理する一連の工程を学んだ。場内は整理整頓がなされ、小まめな管理が行き届いており、引き続き、適正な管理を行い千代川の水質浄化に寄与していただきたいと感じた。
視 察 先	(2)鳥取市上水道事業協同組合
調査項目	上水道事業の現状と課題（要望等）について
所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道局に対し、災害時を想定した訓練の実施を要望しているが、未実施とのことである。技術力の向上に向けた取組は重要であるため、水道局職員と組合員による合同の技術向上に向けた講習会の開催について要望しており、組合と水道局との間でしっかりと話し合いをすることで、お互いの信頼関係を構築し災害時の対応や技術力の向上に向けた水道局の積極的な取組が望まれる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小泉内閣の頃の規制緩和により、水道局の発注する水道工事を受注する機会が極端に減ってしまった。これは水道局の発注工事に土木業者も参入できるようになったことによるものである。規制緩和以前には年2回程度受注の機会があり技術力のある社員をなんとか養うことができたが、最近は年1回の受注があるかないかといった状況であり、水道復旧の技術力を有した職員を今後維持していくことが困難とのことであった。 ・東京都ではスーパー配管工制度を設け、事前に誰がどのように修繕を行うのかということを決めて取り組む制度を構築しているとのことをお話を伺った。上水道組合の要望事項をさらに深掘りし、上水道の事業者も含めた適正な在り方について学んでいきたい。 ・設立当初から現在まで鳥取市水道局との強い連携により事業が行われてきたが、近年、技術者の確保や育成ができないなどの問題点を抱えている。この問題は水道局と共有できていないことによるものという現実を伺い、両者の話合いが必要と感じた。 ・大規模災害が起きた時のために、迅速に対応できるよう、専門技術をもった人材を地元で確保しておく必要性を理解できた。そのために、例えば、「東京都のスーパー管工制度」により専門職を育成している事業者への優先的入札制度などを参考に、今後本市での同様の制度の導入等に向けた調査研究を要望したい。
視 察 先	(3)鳥取市水道局
調 査 項 目	鳥取市水道事業長期経営構想について
所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・長期経営構想は、平成27年4月に改訂を行っており、安全な水道、強靱な水道及び水道サービスの持続を目指し、令和7年度までの具体的な施策を示している。この長期経営構想を確実に実施して、市民の信頼に答えていくことを常に念頭に置くとともに災害時に対応できる体制整備を考えた経営が重要である。 ・災害時の応急給水栓の施設について実際に水を出し、その利用方法について学んだ。現在応急給水栓は、市内に80か所程度あり、この施設を地元住民もしっかりと熟知し、万が一のときに対応できるよう、地元で工具等の準備をしておき、使い方についての訓練も随時行っていくべきと感じた。 ・応急給水拠点整備事業が進められているが、並行して発災時の開栓方法、開栓ルールの徹底や安全かつ適切に利用できる仕組みづくりを市民に分かりやすく示すことが急務だと思う。 ・「鳥取市水道事業長期経営構想（改訂版）、フォローアップについて」題して「水道事業の将来像」「事業スケジュール」「主な施策にかかる事業費」「財政収支予測」などについて説明を受けた。財政収支予

	<ul style="list-style-type: none"> ・測について、内部留保資金残高が安定的目標額 13 億円を上回るように計画されているとの説明が印象に残っている。 ・給水車などの防災関係物資を間近に見て、触れる体験ができたことに感動した。 ・鳥取市水道事業長期経営構想は、今後、予算決算等を審査するうえで大変重要な計画であり、委員会で調査できたのは有意義であった。
視 察 先	(4)鳥取市都市整備部、株式会社まるにわ、鳥取市中心市街地活性化協議会
調査項目	鳥取駅周辺の取組について
所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の感覚での社会実験を通して、市民に駅周辺の在り方について問いかけるものであるが、現地の状況などを見ると若者の視点での発想に共感できるものがある。鳥取市として、このような取組に対して支援することにより、多くの若者の共感が得られることも施策の展開の観点からも重要である。 ・イノベーションを進めていくためには①オーナーの問題、②建築の問題、③誰がやるのかという人の問題があり、特にこの3つの問題をクリアすることが重要であるとのこと。中でも2番目の建築の問題が大きく、都市計画法の用途地域の問題をどのようにクリアしていくのが大変とのことであった。先駆的な取組を行っているまるにわの皆さんに対して敬意を払うとともに応援していきたいと感じた。 ・鳥取市において空き家や店舗の利活用に設備改修のみの補助制度を検討してみてもどうか。 ・駅前社会実験は、駅前の緑あふれる空間で人々が適度な距離をもって過ごすオープンスペースの活用を、木質の箱やベンチ、テーブルを置いて滞在時間を延ばすことを期待している。 ・遊休不動産を利活用しているオフィス体験やけやき広場、風紋広場のオープンスペースでの社会実験の現場を体感して、こうした事業展開が中心市街地の活性化につながってほしいと感じた。 ・銀行借入や、補助金申請等の際に添付する設計図の作成費（1件約20万円）を年間5件程度でも助成する制度を要望されており、推進のためにも、その必要性を再認識した。 ・駅前の地権者の同意をまとめて、バスタ資金、中活資金、民間資金を活用しながら財政負担を減らしつつ、容積率等を見直し、大きく開発ができるよう、高齢サービス付き住宅や、駐車場とセットの大手ホテルの誘致等の民間の玉づくりを進めるべき。 ・本年、まちづくりや地域産品の販売などを手がける「地域活性化事業会社」に、銀行が100%出資可能となる銀行法が改正され、地銀

	と今後の協力関係にも期待したい。
視 察 先	(5)鳥取市下水道部
調査項目	秋里下水終末処理場、下水道等包括的管理委託業務について
所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・管理委託業務は、特定業者に限定されているため業務内容等について、常に透明性の確保と業務管理に精励することが求められるものである。 ・本年2月定例議会の予算審査特別委員会建設水道分科会において、分科会長報告の中で民間委託の透明性を求める意見が出されている。今回の座学の中でも、委員の中から年々伸び続けている事業費を通し、適正な契約手続と事業の執行についての意見が出た。執行部も契約の在り方について検討するとのことであり、この点についてしっかりと検討し、改めて議会の場で説明をお願いしたい。 ・施設の改良を続けながら、50年以上にわたり市民の暮らしを支えてきた公共下水事業に歴史の重みを感じるとともに、将来を見据えて、時代に対応した施設整備のあるべき姿を多角的な観点から調査研究していく必要があるのではないかと思う。 ・「下水道等施設包括的管理業務委託について」概略説明を受けた。包括委託後の労務単価や保全・修繕費が包括委託前と比較し、増加傾向にあることが分かった。 ・秋里下水終末処理場見学について、豪雨災害が増加傾向の昨今、最新の秋里下水終末処理場を見学でき、排水ポンプの必要性を再認識でき大変有意義であった。
視 察 先	(6)鳥取市都市整備部、国立大学法人鳥取大学
調査項目	A I を活用した道路パトロールについて
所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学の岩井教授のもとで、道路の破損状況やグレーチングの跳ね上げ、道路陥没といったものをA I で認知確認するシステムの開発に取り組んでいる状況の説明を受けた。全国に先駆けての取組であり、今後実用化に向けた展開に期待するものである。 ・鳥取市は、鳥取大学工学部の画像処理技術を活用し、画像データをA I に取り込み危険物や障害物の有無とその危険度を判定する研究を大学と共同で行っている。鳥取市民から市道の不具合の情報が画像で送られるシステムが、データ蓄積に大いに役立つとも話されていた。行政と大学とで良好な関係を築いていただき、これからの時代の道路管理にふさわしい取組となることを期待している。 ・道路予算が一般財源化されたことで、道路補修等が追いついておらず危険な状況が続いていると説明を受けており、今回の取組が全国の助けになればと期待し応援したい。